

自然界の ユートピア

発行所 大野市陽明町3丁目
大野地球科学研究会
編集責任者 橋本 恒夫
第 102 号
平成9年10月23日 発行

前 口 上

<< 例 会 >>

10月10日 体育の日 快晴

今日の例会は山田会長が整理棚を三個買ってきたので、みんなで手分けをして棚を組み立てたり部屋を片付けたりすることから始まりました。今まで散らかっていたパソコンや本、資料がアッという間に片付いて、いつでもコタツを出せる準備ができました。時の経つのは早いもので、いつの間にかコタツを意識するような季節になっているのです。

さて、この時期になると大野地球科学研究会の行事も少なくなります。明日の自然保護センター主催行事（屈折望遠鏡を作る）の応援確認と、六呂師の天文台応援や、ホタテの化石採集（上半原よりさらに白鳥寄りのポイント）が決まりました。

そのあとは例によって雑談となったわけですが、本日の話題の中心は「日本のエネルギー政策」。

原子力発電関連の出来事が全国ニュースでしばしば取り上げられます。しかし残念なことに暗い話題ばかりです。全国の人が「福井県は原子力発電所を抱えているから危険だ」というようなイメージを持ったとしたら悲しいことです。

一方客観的に考えてみると、資源の乏しい日本にとってエネルギーの確保は国家の基本的課題で、食料問題や安全保障と同じくらい重要でしょう。

私が物心ついた昭和40年頃、我が家に電灯はありました。しかしテレビ・冷蔵庫・洗濯機などというものはありませんでした。あれから三十数年を経た現在では、大型テレビ・大型冷蔵庫・全自動洗濯機は言うに及ばず、

目 次

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 前 口 上 | 5 第3回 手取群化石産地レポート 9 不足分 タイ道中記 |
| 2 日米親善化石採集会報告 | 6 // 10 編集室から「こんにちは」 |
| 3 サマーカントリースクールに参加して | 7 第3回 タイ日食観測道中記 |
| 4 オアシス自然観察会参加 | 8 訂正とお詫び |

さまざまな電気製品に囲まれて生活をしています。さらに自動車やエアコンまで生活必需品となりました。

ふつう、生き物のエネルギー消費量は体重の増加に比例して増えますが、人間だけは全くの例外です。日本人はここ三十数年の間に、どれだけ多くのエネルギー使うようになったのでしょうか？

私たちが使っている膨大なエネルギーのうち、何割かを原子力発電に頼っています。この現実を踏まえたうえで、次の世代に安定したエネルギー源をバトンタッチできる方法を考えなければなりません。私たちの世代だけが思い切りぜいたくをして、そのツケを子供達に押しつけるようなことは許されたいのです。

原子力発電に対してこれからどのような姿勢で臨むのか。本当に大きな問題ですね。

<< 県立恐竜博物館（仮称）建設について >>

かねてから話題になっていた勝山市の県立恐竜博物館の建設計画が、福井新聞（10月8日付）に掲載されたので紹介します。ただし福井新聞が取材した記事ではなく、勝山市が自己PRしたという形をとっています。

できればこの博物館を大野市に作って欲しかった気もします。しかし、恐竜化石の発掘状況から考えると仕方ないかも知れません。

またこれだけ大規模なものになると、勝山市が運営する施設の建設後のランニングコストや人件費は、市の財政を圧迫しかねません。恐竜というテーマでどれだけ継続的に人が来てくれるのかは未知数です。

勝山市民の胸中も複雑なようで、「箱もの」の時代は終わったということなのでしょう。

場 所 長尾山・・・国道157号線を勝山から白峰方面に向かって「スキージャム勝山」入口の左手（西側）付近

総事業費 約170億円

建 設 県立恐竜博物館を第一期工事とし、平成12年完成予定。延べ床面積15,000㎡楕円形ドームの恐竜ホールと地上三階、地下一階のウィング棟。

また第二期工事として勝山市が次の施設や駐車場を建設。平成20年完成予定。

屋根付き運動広場・陸上競技場・テニス場
ゲートボール場・キャンプ場・森の博物館
野球場・多目的館・多目的広場・恐竜の森
太古の水辺・いにしへの丘・維持管理センター。

そ の 他 「最大の特徴となっているのは自然を生かしながら整備を進めている点です」

「各施設周辺の森林を残し、過剰な造成を行わず、山の傾斜を利用した計画としました」ということで、自然保護が特に強調されている。

（文責 佐々木）



活動報告 日米親善化石採集報告

佐沢会員から会長の元へ「近々カリフォルニアより高校生がホームステイのため大野に来るのだが、大野でしか体験できないようなことはないか」との私的相談があった。前田、橋本、城地らが相談にのっている内、「大野といえば“自然”しか無い。大自然の中で化石でも採集させよう」、「化石なら、我々が案内しよう」といつのまにか研究会を巻き込んだ日米親善化石採集会となった。

行き先は和泉村下半原の林谷で、2地点ほど巡って化石を採集した後、林谷入り口の九頭竜湖畔で昼食としました。

午後は高校生らとお別れし、伊勢～伊勢峠～笹生川ダム～細ケ谷を巡り、終わってみれば奥越を1周した形となった。

前日に梅雨明け宣言が出され、さわやかな晴天の下、事故もなく無事終了しました。詳細は下記の通りです。

日時 平成9(1997)年 7月20日

参加者 佐沢さん一家 5名、カリフォルニア学生(訛姓) 6名
山田・佐々木・城地・服部・橋本

日程 朝 9:30 大野地球科学研究会前に集合 9:45出発
10:45 林谷採集ポイント到着

Loc. 1 シジミ・カキ・カワニナ化石を採集

Loc. 2 植物化石片を採集

昼 1:00 林谷入り口付近の九頭竜湖畔にて昼食

Loc. 3 伊勢橋付近にて植物化石を採集

Loc. 4 笹々生川と細ケ谷の合流点でウミユリ化石を採集

会長を除き英語に弱い人がほとんどでしたが、H₁会員は、得意のボディラングウェッジで体当たりしていました。H₂会員は、インディージョーンズのテーマを口づさみながら辞書片手に、S会員はさりげなく／静かに／しかし着実に会話していたようです。今後のため、専門用語の解説を……。

1億年前 One hundred million years ago

化石	fossil	破片	fragment
シジミ	corbicula	シダ	fern
カキ	oyster	恐竜	dinosaur
ジュラ紀	Jurassic Period	汽水	brackish water
地層	stratum、bed	巻き貝	gastropoda
手取層群	Tedori Group	植物	plant

(文責：城地)

昆虫調査

なお、この調査と同時に昆虫採集もJ会員を中心に行なわれ、特記事項として、伊勢橋付近では福井県で産地が限られるクロシジミ(蝶)を素手で採集しました。この蝶は、福井県では最初大納で発見され、その後角野でも確認されたもので(福井県自然環境保全調査研究会編; 1985, p.136参照)、山系を考えれば鷲鞍山を挟んだ反対側の当地域に生息していてもなんら不思議でないと判断されます。

以下に、現段階で同定し終えたものについて列挙します。

◎Loc. No. 1(19970720-2)林谷林道

コムラサキ(目撃)

イチモンジかアサマイチモンジ(目撃)

カラスアゲハかミヤマカラスアゲハ(目撃)

ダビドサナエ、ヨツスジハナカミキリ

◎Loc. No. 2(19970720-3)林谷林道入り口

キアゲハ(捕獲確認後放)

マメハンミョウ(多数目撃)

ミヤマクワガタ(カリフォルニア学生にも大人気)

ハギツツハムシ、ツマフタホシテントウ

ヒラヤマアミメケブカミバエ、アキアカネ

セマダラコガネ、マメコガネ、コガシラアワフキ

ハナバチ sp.、モンキアワフキ、

ヒメマルカメムシ、ヒトテンツヤホソバエ

◎Loc. No. 3(19970720-4)伊勢谷付近

コムラサキ(目撃)、クロシジミ(手掴み)

◎Loc. No. 4(19970720-5)笹々生川と細ケ谷の合流点

コカメノコテントウ、マメコガネ

ハギツツハムシ、アオバネサルハムシ

クサビヨコバイ

ヨモギヒシウンカ

オバボタル、セアカヒメオトシブミ

キバネハサミムシ、カシルリオトシブミ

ミバエ sp.

ヒトテンツヤホソバエ

オオメカメムシ

コガシラアワフキ

(文責 城地)

天体観測

化石採集の前日に大矢戸天文台でも交流会を行いました。

OYATTO天文クラブ員のほかにS会員の二人のお嬢さんも参加! 楽しい時間を過ごしました。

梅雨明け寸前の夜空、夏の星々の説明を英語でということ・・・(日本語が通じない)

H₁会員のなにふりかまわすのコミュニケーション(本人は通じていると思っている?)や、多少知識のあるH₂会員の星夜説明、S会員のお嬢さんたちは星のことをそっちのけで学校では習えない生の英会話を楽しんでいました。

ちなみにカリフォルニアには蛍がいらないらしく? "Oh! FierFly"と叫んでおりました。

(文責 橋本)

日米も輝く夜空
いとおかし
もちよ



活動報告 サマーカントリースクールに参加して

オアシス協会主催サマーカントリースクールの講師依頼があり、8月2日と3日の両日、当会からも数名が参加し、微力ながら協力させて頂きました。両日とも晴天に恵まれ（一時太陽が隠れたが…）、夜も満天の星空を見ることができました。

8月2日 前田、長谷川、佐々木、橋本、服部、城地

8月3日 前田、長谷川、脇本、城地、橋本

8月2日 昆虫班（城地）

私は、羽田先生の下で、昆虫班のお手伝いをした。最初は旧六呂師小学校周辺の木や校舎周辺の観察後、神明山へ向かって歩きだし、山頂で昼飯となった。非常に暑いので自然保護センターで一服した後、馬池周辺でトンボ観察を行なった。

六呂師小学校周辺では、校舎に営巣されたアシナガバチおよびスズメバチの巣を観察し、ハチの刺され方を勉強した。

山へ登る途中では、水田脇で色々な虫を観察したが、クマ出沒注意の立て看板には少々ビビっていたようである。山頂で昼飯とした後、前日に羽田先生がハチミツを塗っておいた木に虫がたかっている様子を期待したが、残念ながら何も飛来していなかった。

トンボ池ではギンヤンマを子供らに見せてあげようと、羽田先生自らも捕虫網を振った。数人の子供らにも振らせたが、予定通りヤンマはタモにかすりもしなかった。いよいよ“虫のおにいさん”の登場となり、3振り目で運よくクロスジギンヤンマをネットインし、面目をかるうじて保った。ヤンマを子供らに見せたが、その緑と藍色の斑紋の美しさに驚嘆していたようである。



ノシメトンボを手づかみし、大喜ぶする子供

8月3日 水遊び・魚つかみ・自然観察（城地、橋本）

唐谷川砂防堰堤付近で、水遊び・魚つかみ・自然観察を行なった。実は、この砂防堰堤へ至るルートは今年の昆虫班が歩いたコースでもあり、自然あり・太陽あり・水あり・日陰ありの非常に良い所である。

水遊びをした所は上流に砂防堰堤があり、水通しから勢い良く川水が流れ出ている。子供らは、滝打ちよろしく流れ出る水に打たれていたが、見ているといかにも涼しそうで、自分も海パンになって一緒に遊びたい衝動にかられた。フットワークの軽いH₁氏は、たまりかねて滝打ちに出かけたようであるが、ズボン（しかも尻）が破れる波乱があった。

この付近は水深が浅く、流れも急でないことから、安心して見ることができ、午前中はこのように比較的楽に時間が過ぎていった。

午後は水生生物の観察を行なうことになったが、子供90名に対し講師は伊藤先生、石本先生、城地の3名のみで、午前とは一転して大変忙しくなった。方々から質問が出て、2回に分けて説明を行なったが、川のせせらぎとセミの泣き声がBGMとして流れているため、自然と声は大きくなり、終わるころには声が枯れかけていた。

伊藤・石本先生の情報を合せると、水生生物は以下の12種が認められたことになる。

ヒラカゲロウ sp.	シマトビケラ sp.	カワゲラ sp.	ガガンボ sp.
コカゲロウ sp.	ヒゲナガカワトビケラ	トンボのヤゴ	ヒル sp.
オヤマカワゲラ?	シカクツトビケラ	ヘビトンボ	プラナリア sp.

(文責：城地)



水辺で遊ぶ子供たち



にっこりお弁当 「美味しい！」



「先生！この虫なんですか？」

活動報告 オアシス自然観察会参加

オアシス協会主催の自然観察会が8月10日にあり、当会からも数名が講師として参加しました。

日時：1997年 8月10日 朝 6時15分～昼 2時45分

化石の部：山田、長谷川、脇本、川田、佐々木、服部、橋本
昆虫の部：城地

前日まで天候が怪しく開催が危ぶまれましたが（これまで中止になったことがないらしい）、なんとか持ちこたえました。非常に暑い日となりましたが、大きな事故もなく終了しました。

昆虫班の状況

午前中は、九頭竜湖を散策した後、熊野神社へ向かってゆっくり歩き出した。早朝の出発ということで、10時には腹が空き始め、結局10時半には神社で昼食となった。昼飯の後、神社境内アリジゴクと遊んだ後、石徹白川に降り水生昆虫の観察を行なった。

例年通り駅周辺でのイモリが大人気で、初めは怖がっていた子ども、こちらが手でつかんでやれば、自ら手づかみするようになった。捕まえた昆虫を逃がしても、イモリだけは大野へ持って帰った子がおり、同行してきた母親の困惑した顔がいまでも思い出される。

今回の観察会で特に珍しい昆虫は認められなかったが、森永さんがマムシを捕獲した。以下、記憶している種を列挙する。

[昆虫] コムラサキ、キチョウ、スジグロシロチョウ、アカタテハ、ヤマトシジミ、ダイミョウセセリ、ウラギンシジミ、アキアカネ、ミヤマアカネ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマ、コオニヤンマ、ミヤマカワトンボ、ヒグラシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、アメンボ類、マツモムシ、ゴミムシダマシ、ゴミムシ類、キマワリ、ツマグロハネナガイナゴ、フキバッタ、バッタやキリギリス類、コカマキリ、オオカマキリ？、フタモンアシナガ、コアシナガ、キボシアシナガ、ヒラタカゲロウ類、カワゲラ類、ヒゲナガカワトビケラ、アリバチ類

[両生・爬虫類] トカゲ、カナヘビ、マムシ、ヤマカガシ、トノサマガエル、イモリ

今回は子供27人、大人14人と多かったが、森永さんも同行して頂いたお陰で、何とか無事終了しました。（文責：城地）



自然観察会参加者状況



昆虫の説明をされる羽田先生



昆虫班の観察状況



「イエーイ 「世紀の大発見？」」

化石班の状況（橋本手帳より）

やってきました観察会！昨夜の雨が嘘のよう、やはり私は晴れ男！

化石班は約100人の子供さんが参加！めざすはやはり「伊月のシェルター」、途中休憩をはさみ、H2会員と何やらマニアな話をしながら最後尾を歩いていきました。

さて到着したのですが、私のロックハンマーが無い！和泉村まで乗せてもらったW会員の車の中らしい……

しかもW会員は植物班にいるらしい（実際は各班見回りしていたらしいが）「う〜ん」急げば拾え」と研究会標語?! がひらめきました！伊月は結構いいサンプルが拾える場所ハンマーがなくともなんとか……

しかし、実際はそれも訳もいくはずもなく、子供たちが「ここだけ割って！」「これ化石？」「みつからん」などの質問、小言など色々のお話相手で、(子供たちのハンマーは余りにもカワイイらしいモノでしたので、とても割にくかったです。)

お昼も終わり、午後からは和泉村グリーンセンターへ、どうやら先頃発見された「ティラノの歯」の展示があるらしいとのこと。子供たちよりはしゃいでいたのは、私だけでは無かったとおもうのですが……

本日の戦果 “ポリメソーダ” 発見！（あまり良いサンプルではなかった）ということで、子供たちより楽しんでた橋本でした。

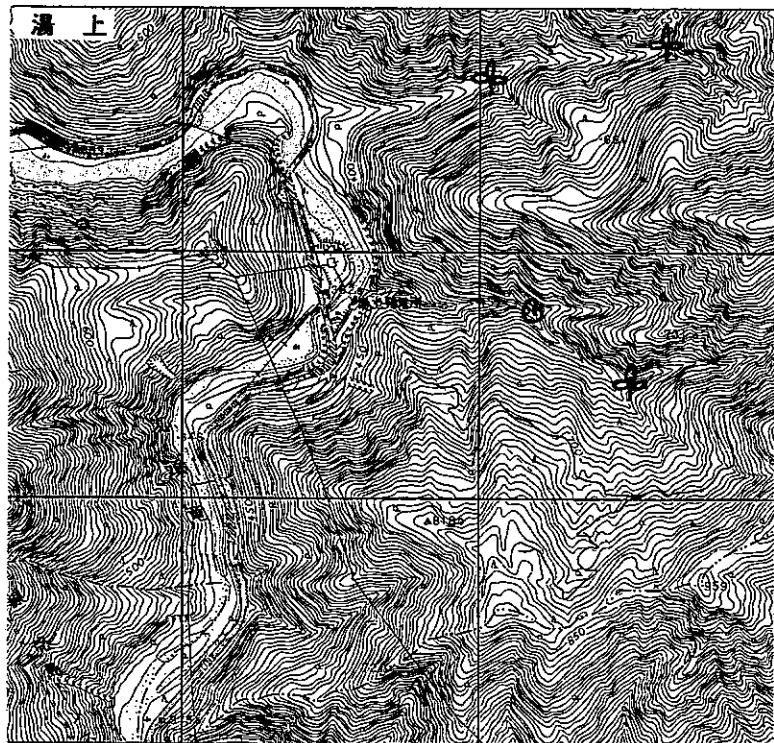
(;) (文責 橋本)

7. 湯上

発電所すぐ横に大きな露頭がある。FBCの山本氏は、ここで恐竜化石が出るかもしれない、くさい、とかねがね言っているが、立ち入り禁止なのでどうしようもない。

発電所から少し大野よりに谷が一つある。その入り口には、湯上小学校があったというが、今は何もない。この谷は、少し上がったところの地層が、湯上発電所の露頭の地層と同じなので、調査してみることにした。くまざさをぬけて進むような怖い所で車は使えないので、清水氏に応援を頼んだ。案の定、黒々とした頁岩の露頭がたくさんあるが、シジミの密集した岩石を幾つか採集できただけである更に上がっていくと、完全な砂岩に変わっている。

こんどは、発電所から朝日よりに200mぐらい行くと、林道が一本ある。ここも前田氏に教えてもらったポイントで、かなり悪路をどんどん上がっていくと、このあたりの谷をほとんど見渡せるような場所に出る。このあたりの露頭で植物化石が出たと前田氏が言うが、いくら探してもそのポイントがよくわからない。前田氏は、以前来たのはそんな昔のことではないと言う。その割になぜわからないんだと不思議に思ったことがある。これは、私が化石調査に慣れてない頃の話だ。後で、慣れてくると、一般に林道の変り様は並大抵のものではないことがわかってきた今にして思えば、だいたいでも、それらしいポイントに辿り着いたのだから、それで上出来だったのだと思う。この後、ここでは、大きな植物化石を幾つか採ることができたこのあたりの工事用トンネルの岩屑である。結局、露頭は現在も見付かっていない。

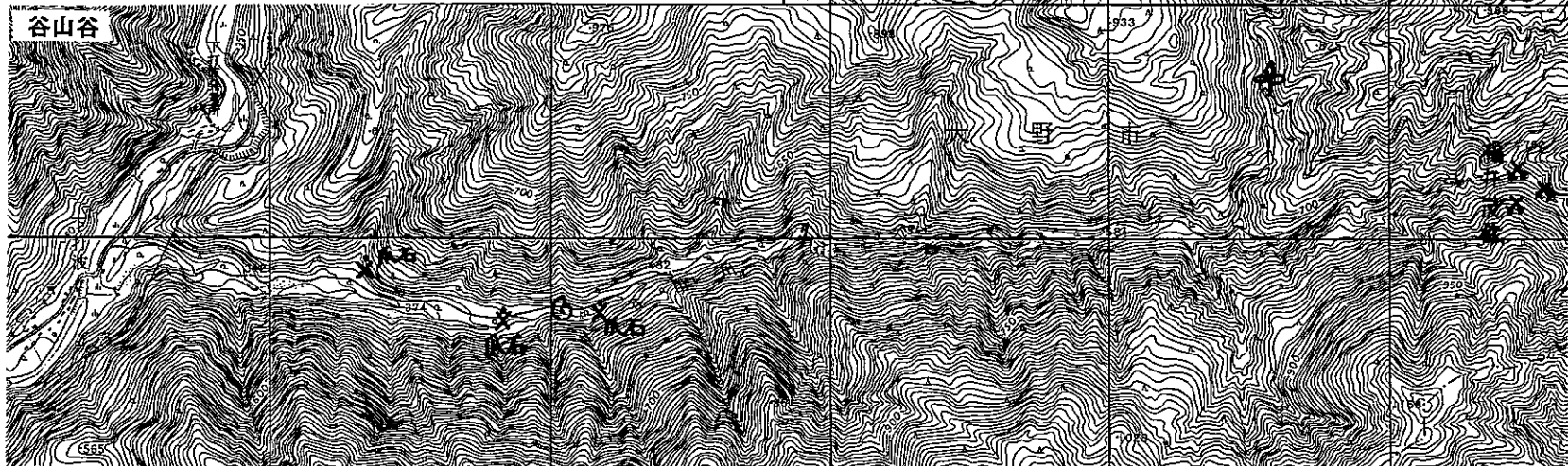
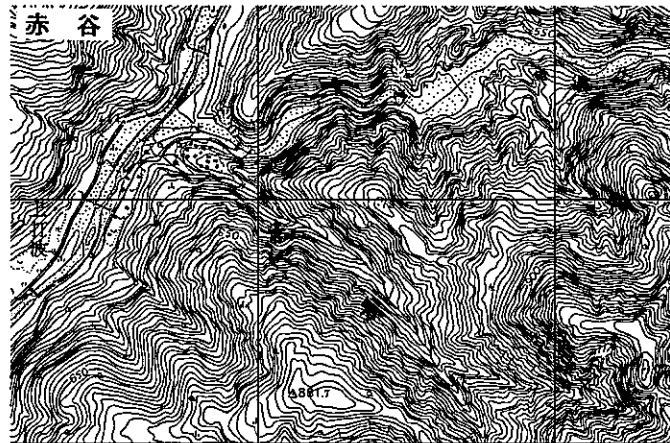


○ ×: 地質図に記されている化石産地

8. 下打波谷山谷

私が大野へ帰って初めて前田氏に連れていってもらったポイントである。河原に大量の爪石を発見、大きなリップルマークのついた砂岩も見付けた。恐竜化石も有望かと考えたが、肝心の露頭が見付からない。谷山谷入り口から2kmぐらい右岸に、四列ぐらいに細長く組まれた砂防ダムがあり、どうもその岩くずが爪石であることがわかった。100mぐらいは急斜面を登らなくてはならず、とうとう諦める。なお、この後、谷山谷入り口から1kmぐらい右岸に林道があり、ここを100mぐらい上がった所に、爪石やリップルマークのついた露頭を発見した。このあたりは、谷山谷入り口から角野前坂まで伸びる予定の林道の通り道になっている。期待すること大である。

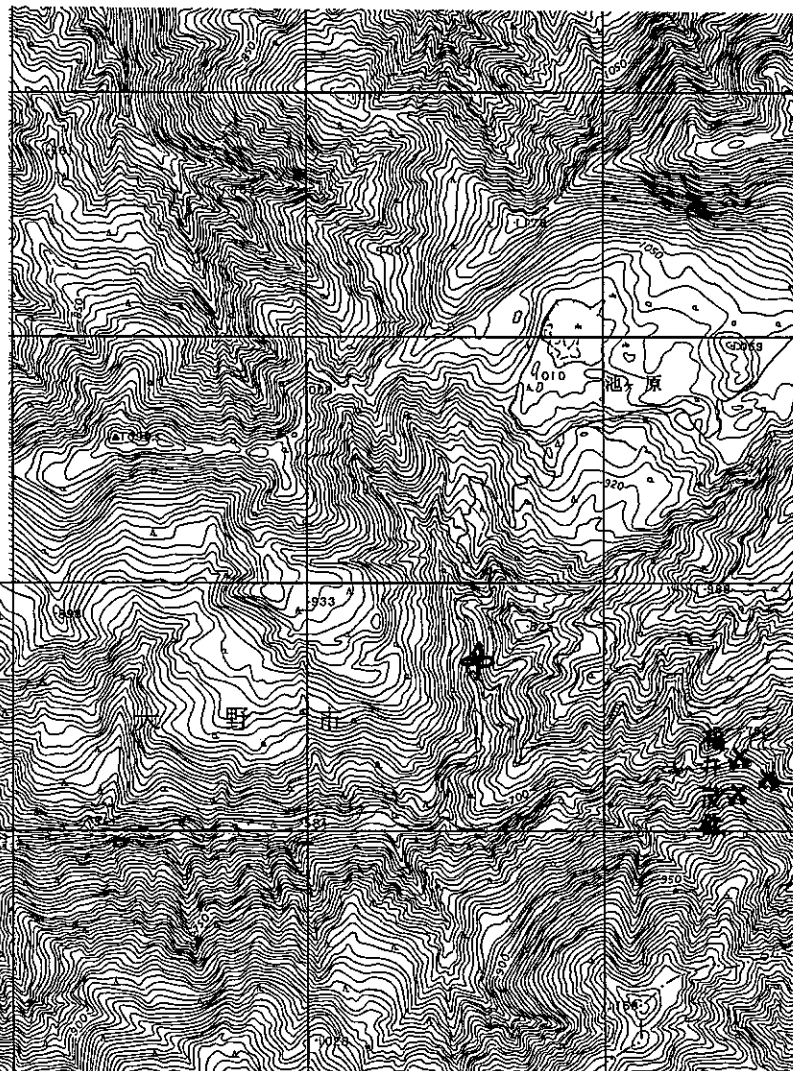
この谷の入り口から6kmぐらいのところにも、保存の悪い植物化石を幾つか見付ける。池が原のずっと手前である化石とは関係ないが、この林道はトチやクルミがたくさん落ちていて、クルミはたくさん採ったが、余った分はオアシス協会の教材用に寄付、トチは自家製のトチもちの原料にした。トチもちは、色薄く、風味なく、苦みが多い。本当に難しい。誰かにちゃんとした作り方を習いたいと思っている。



× 発見した化石産地 ○ ×: 地質図に記されている化石産地

9. 上打波赤谷

中村の部落から南東方向に開けた谷である。美濃又谷とも入り口がほぼ近い。地質図上は火成岩地帯になっているが、大きな動物化石のような物が上流にあるらしいという情報を得て、調査してみたくなった。地質図も完璧ではないのを調査の回数を重ねるうちにわかってきていたし、もしかして、恐竜化石ではという思いもあったからである。完全にやぶこぎで前進するしかないの、会員数名に応援を依頼した。11月下旬を選んだが、それでも草ボーボーで前進に骨が折れた。すすきが非常に美しかったのがなぜか印象に残っている。結局、レキ岩が確認できた程度で引き返すこととなった。川田(修)氏は体調をくずしており大変つらそうだった。ガサネタで他の会員にも非常に迷惑をかけて恐縮している。民間情報と言うのは、ガサネタが非常に多いということを知った。そう言えば、前田氏も同じようなことを言っていたのを、帰ってから思い出した。



10. 上打波の打波川北岸

このあたりは、手取層の上を経ヶ岳火山がドンと乗っかっている。そして、その合間に手取層が所々顔を覗かせているというのが概要である。

(1) 嵐谷

1kmぐらい上がると、砂防ダムがあり、その岩屑から大量のしじみ化石が見付かった。但し、風化が非常に激しい

(2) 玄向谷

ほとんど全てが安山岩だったが、3kmぐらい上流に頁岩が黒々と現れている箇所がある。化石は全く出ず、火成岩の中に顔を覗かせた手取層があるのではという推理の上の調査だったが、見事な当たりだった。化石より地形の形成や大地の営みの方に興味に移るきっかけとなったのが、この調査であった。その意味では、私にとって心に残る谷である。

(3) 鳩が湯鉱泉付近

ここの横を上がって行く林道がある。ここは、安山岩の下に手取層、その下に飛騨変麻岩というふうに、まるで地質の教科書そのもののような地層をしている。但し、手取層の植物化石はかなり保存が悪い。

(4) 刈込池付近

ここへの登山道は二か所あるが、大野から遠い方の登山道付近にも、保存は悪いが、植物化石の出る所がある。

(5) 観音谷

研究会では私が一番最初に見付けたポイントのように思う。話は私事になるが、家内と結婚する前に、このあたりをドライブしたことがある。時は初冬で、途中から大粒の雪が降り出し、ノーマルタイヤの車を急いで大野方面へ方向転換したのが、観音谷の入り口付近であった。寒々とした風景の中に、観音谷林道の赤茶けた露頭が印象的であった。私は、初めてここを調査に来た時も、この時の風景がなぜか思い出された。こういうのを「何かの因縁」とでもいうのだろうか。

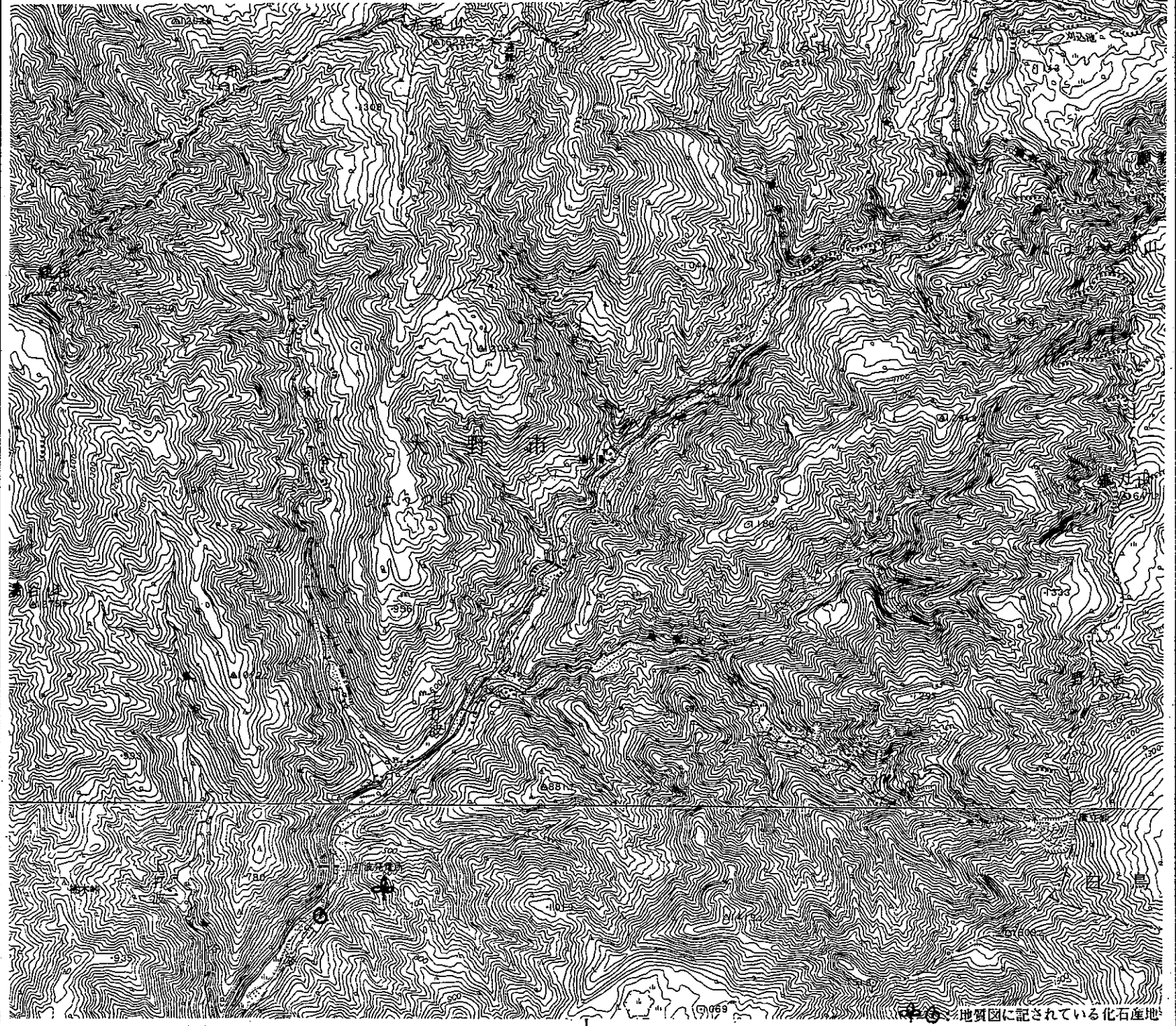
入り口には巨大なリップルマークの壁がある。恐竜の足跡は？などと考えたが駄目だった。カワニナの化石が少々出た程度だった。だが、掘り起こせばもっと出るだろう。林道のドン詰りまでには、ポイントが数箇所あるが、保存のいい物は少ない。また、川に降りてみたが、化石は見付からなかった。だが、「大野市で恐竜化石を見付けようと思ったらここしかない」と県立博物館の東氏に言われている。もう少し根気をだそうかとも思っている。

なお、佐々木氏が家族連れでこの谷に来たことがある。林道のドン詰りまで歩いた後、林道の入り口付近で昼食を取っていたところ、親子連れの熊に接近遭遇したそう。その日は早々に退散したという。

(6) 観音谷と鳩が湯鉱泉の間の川床にも、植物化石の切れっ端のようなものが出る所がある。

11. 経ヶ岳中腹

報恩寺林道を行くと、山手に少し熱変成を受けた頁岩の露頭が見られる。手取層の一部と考えている。経ヶ岳には、このような露頭が他にもあるように思う。



中図 地質図に記されている化石産地

タイ日食観測道中記

連載 第3回

そうこうするうちに、ようやくスコタイの町に到着する。ここでも1ヶ月前に水害があったらしく、橋が落ちて修理工事のまっ最中である。現天皇が泊まれたというパイリン・スコタイ・ホテルは、可愛らしい感じの垢抜けした建物だ。ロビーに入ると、緑色のフレッシュドリンクのサービスがあった。さわやかな味がして、旅の疲れがいやされる思いである。入り口のドアの上の壁には、象に乗って戦をしている彫刻が施してある。昔の戦いには象を使ったというが、カンボジアから独立したスコタイ王朝の様子を現わしたものだだろう。客室は中庭を囲んで、吹き抜けの廊下でつながっている。南国ならではの造作だ。

夕食がまたしてもビュッフェ式で、いささかうんざりしたところであるが、ここでH氏がくだんのそうめんを出してきたのである。こともあろうに、ガイドさんを通じてコックに作らせたのだ。恐れ多くも、かの天皇陛下のお召し上がりものを調理したであろう、コック様にてである。H氏の機転と執念に脱帽しつつ、氷を浮かべたそうめんを、大野の水で作っためんつゆで食するこの醍醐味。S氏曰く、まさに「甘露、甘露」である。今そうめんを食べていた、H氏の姿が見えなくなったと思えば、今度はカウンターの女の子に、インスタントラーメンをプレゼントしている。一体、あの大きなトランクには、何が入っているのだろう。

ところでこの英雄のH氏、食事がすんだところでとんだ失態に気がついた。鍵を部屋の中に忘れてきたのである。ドアの前で頭を抱えるH氏、いつも話題を与えてくれる愛敬者だ。

明朝は5時出発だ。本番に備えて体調を整えておかななくてはならない。一行の中で30名ほどは、夜間観測も兼ねて今晚10時には出発してしまう。大野隊の中には残念ながら、そこまで気骨のある猛者はいない。

◎10月24日(火)

午前5時、まだ暗いうちに朝食の弁当持参でホテルを発つ。朝に弱いH氏は、バスに乗り込んだ途端、死んだように眠ってしまった。大野ではまず見ることでできないカノープスが、南の空に輝いている。シンと静まりかえったバスの中で、夜明け前の空を眺めながら、今日の皆既日食観測の成功を願った。昨日見た人家の前の氏神様に、イルミネーションが輝いている。豆電球で、飾り付けしてあるのだ。6時になると日が昇り、托鉢の僧の姿が所々で見かけられるようになる。まだ10歳にならないような小さなお坊さんも混じっている。本当にタイの人々は信心深く、僧侶は尊敬され、大切にされている様子がよく分かる。又、それだけ僧侶の生活は厳しく、270の戒律でがんじがらめにされているそう。日頃、檀那寺の和尚さんを見慣れている目には、別世界のように見える。



今日の観測地はナコンサワンの学校の校庭であるが、現地からの情報によると、昨夜雷を伴うスコールがあって水浸しになったそうである。観測が始まるまでには水は引くだろうとの事だが、先発の人達はどうしただろうと、気の毒になる。8時頃現地に到着すると、校庭はまだ所々ぬかるみ状態だが、昨夜の雨が嘘のように晴れあがった青空だ。既に現地の飲物売り屋が陣取り、体育館では放送局が中継放送を大きな音で流して、かなりたくさんの方が集まっている。乾いたところを見つけて、大野隊も機材を並べ始める。S氏はビデオを太陽に向け、Y氏は同じくビデオを、観測する我々に合わせている。K氏・I氏もそれぞれカメラをセットして、準備OKである。太陽はジリジリと照りつけ、非常に暑い。この太陽が隠れてしまうとは、何とも信じがたい思いだ。

そんな家の前を通って、物見遊山で遺跡見物をするのは気が引けるが、それは単なる感傷主義に過ぎないと、思い直した。観光収入が、この町を潤しているのだから。事前調査ではかなり広いはずだが、見物できるのはほんの一部だけである。特に遺跡を楽しみにしていた、H氏とI氏夫人には気の毒だが、スコタイもあることだから、我慢してもらうより仕方がない。遺跡は煉瓦積みで、地盤沈下のせいかピサの斜塔のように傾いたものもあり、風化されたその姿は、650年の年の流れを彷彿とさせる。タイの仏像は全てお釈迦様らしいが、総じて面長で、エキゾチックな風貌である。

真っ白の「寝仏」が足の裏をこちらへ向けて、横たわっておられる。仏様の足は、扁平足で指の長さが同じというが、足の裏をマジマジと拝見させてもらうのは初めてだ。このような足の持ち主が、大野隊の中にもいたような気がするが……。少し行ったところで寺院にお参りすると、老僧が腰掛けてこちらを見ておられる。実は精巧な、等身大の蠟人形なのである。皮膚の色、たるみ、しみ、何よりも目。ガラスケースを通して体温が感じられそうな気がする。一同「すごい、でも不気味。」と感嘆の声を上げる。寺を出て塔に登り、四方を眺めて見ると、見渡す限り地平線である。その昔はうっそうとした木々に覆われて、王様を乗せた象の軍隊が、パオーパオーと行進していたのではないだろうか。

出発の時間が来て入り口へ戻ると、絵はがきをヒラヒラさせて、「5マイ、シェンエン。」とお土産売りが呼び掛けるが、言われていたほどしつこくはない。H氏の姿が見えないので、きっとあそこだと引き返すと、案の定お土産屋でTシャツをあさっている。H氏が一番行動力があって、抜け目がないようだ。

アユタヤの町のレストランで、昼食となる。ここでなければ、今日の宿泊地スコタイまで、140名が利用できる所は無いという、大きくてきれいな店である。朝と同じくビュッフェスタイルで、好きなものを好きなだけ食べられるのだが、お定まりのハムなど別にして、見ためと味にギャップがあるので選ぶのに苦労する。総じておいしい。激辛を期待していたK氏には物足りないらしいが、観光客用に味はソフトに抑えてあるのかもしれない。S氏・H氏が、デザートに訳の分からないものを持ってきた。こんにやくゼリーの様な物や、蛙の卵（良く言えばアケビの種）みたいなもので、無味無臭である。I氏が、大好きなイチゴミルクと信じて取ってきたものも、同じく味もそっけも無い。デザート嫌い

のI氏夫人が言った。「シロップかけてきたの？」……。

昼食がすめば、後はアジアハイウエーをまっしぐら、約400km先のスコタイを目差す。レストランを出て間もなく、牛の群れが横断するのに出くわした。やせこけたジャージー種、といった牛だ。国道を横断する牛とは、タイの象徴である。牛のマークの道路標識があるくらいだ。

町を遠ざかると、あたりは見渡す限り田圃であり、木の茂みが点在するだけである。田圃と言っても圃場整備されている訳でなく、稲に混じって木が生えているのは、日本ではあまり考えられない。洪水のため、ところどころ沼地となっている。農村集落があるはずだが、木の中に隠れているのか姿が見えず、ただ原野の中を走っているような気にさせられる。延々と同じ風景で、1時間ばかり眠って目が覚めても、何の変わりも無い。これがスコタイまで5時間ずっと続くのである。

国道沿いに時々人家や露店があり、農村の生活を垣間見ることができ。洪水がしばしばあるのか、高床式の小屋のような家が多いが、風が吹けば飛んでしまいそうな頼り無い感じがする。タイには地震も台風も無いらしいので、これで間にあうのだろう。乾期になると雨が降らないので、水道施設の無い農村部では雨期の間には壺に雨水を貯めておき、6ヶ月間飲料水として使用するらしい。ボウフラがわけばカーンと壺を叩き、ボウフラが沈んだところをすくって飲むという。壺のようだが本当の話で、ボウフラもわからない水は腐った水で飲むことはできないと言われ、妙に納得してしまった。生活水準の低さが感じられるが、小屋のような住居の中に、時々しょうしゃな住宅も立てられている。何十年か前の日本と同じく、このあたりも段々と変わっていくのだろう。

家の前には、仏壇の様なものが建てられている。氏神様みたいなものだというが、これも鳥の餌台のようなものから、きれいに彩色されたものまで、その家の事情に合わせて様々である。庭先に放し飼いにされている鶏は皆真っ黒である。カラスにトサカを付けたような趣であるが、よくみるとオンドリには、雉に似た色合いの羽根が混じっている。鳥類の多くは、雌の気を引くために雄の方が美しいといわれるが、タイの鶏も例外ではないようだ。ヒトの雄が雌の気を引くためには、雌を美しく飾ることのできる甲斐性が必要とされる。どちらが幸せなものか。

ところでトイレ休憩であるが、ここではガソリンスタンドしかない。特に、ご婦人にとっては恐怖の体験となるのだが、I氏夫人にその有様を語ってもらおう。

研究会発 大野ニュース

9月10日 県会議員 林 順一氏 他界

48歳という若さで他界されました、今後の活躍が期待されていただけに非常に惜しめます。大変に愛想が良かった方で、改めて故人の人気ぶりを伺われました。心からのご冥福をお祈りいたします。

9月12日 下庄バレークラブ 県大会優勝

決勝戦がテレビ放映されました。佐々木会員の奥さんが大活躍！とか。おめでとうございます。

9月 和泉村化石クラブただいま活動中！

和泉村朝日小学校「岩石化石クラブ」が新聞（福井中日 日刊県民福井）に掲載されました。顧問が川田信会員で「和泉で化石になる覚悟で活動中」（川田信行会員談）とのコト 恐竜の全身骨格の化石という大発見も間近か？！

行事予定

10月4、18日 六呂師天文台人員派遣

秋の星座の説明ですご協力を！

11月8～9日 東京国立天文台一般公開

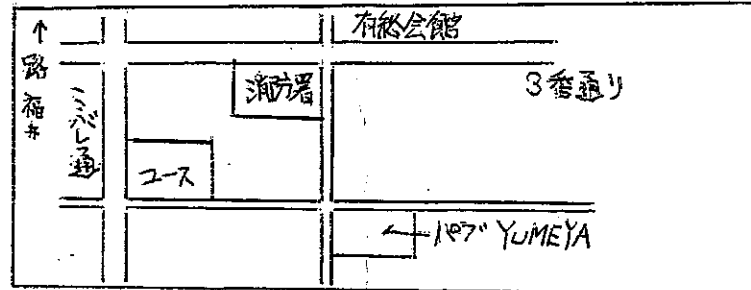
年一回のお祭り！OVATTO天文クラブをはじめ研究会有志がおしかけ見学会を計画中！参加希望者は服部会員までご連絡を。

ちょっといい店紹介 その1

バブ YUMEYA



マスターがなんと大高地学部出身！自然と山をこよなく愛する人で、大変にオシャレなバーです。読者の方で（あ～ん あそこ！）と思う方もだいぶいるのでは？今は、季節のおつまみ（キノコ ￥500）がおすすめ料金がリーズナブルなのも魅力の一つ。



「紅葉を見に山へ行きましょう！山での星と酒はまた格別ですね。」 自称キム拓似の YUMETAYAマスター談

営業時間 PM7:00 ~ PM12:00... ごろまで
TEL 0779-65-6884

ボトルは研究会の名前でちゃんとキープしておいくださいね？！

(文責 橋本)



☆☆☆☆☆☆☆☆ お知らせ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆
☆ 「大野盆地の成り立ち」研究会自費出版計画 ☆
☆
☆ イラストを豊富に使用し、興味の無い方でも ☆
☆ 自然と読んでもらえるように努力します。 ☆
☆ (文責 佐々木) ☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

編集室からこんにちは

すっかり秋めいてきました今日この頃ですが、季節の変わり目風邪など引かれてませんか？

この夏の研究会はイベントだらけで、参加された方、応援された方、ともにご苦労様でした。私個人としては、日米交流会でのコミュニケーションなんかは今後役に立ちそうで・・・（最近、英会話教室に通っています。少しは勉強しないと？）カントリースクールでは星のセンセイ（おじさん）より”工作のおじさん”の方が有名だったりしてしまい本業を忘れかけていました。すみません最も盛大だったのが、なんと言っても！図書館友の会との交流会（8/31）でしょう！アンデス民謡でのダンス、すっかり迷コンビになった橋本会員と服部会員のスイカ割イベントや、山田会長を唸らせた星座の説明会など、至極の時間を楽しみました。これからもこの様な交流会を開きたいです。

(ネット！幹事長)

あと、感心したのは、自然観察会の時に脳本会員や長谷川会員が和泉村グリーンセンター前のご本尊石（伊勢産の化石）を誠に丁寧かつ綺麗に磨いておりました「これからは恒例行事にしたいね！」（脳本会員談）とのこと、ご苦労様でした。(。~!!good 個人的なコトですが、薔薇が綺麗な季節です。家のも7種10本の薔薇が有りますが、寒暖の差が大きければ大きいほど良い色が出るとか。花の好きな方、色々教えてくださいね。

編集室では会員様からの原稿まっています。それではまた次回

(文責 橋本)